

社会福祉法人 西鳳会



「持ち上げない介護」への挑戦

～ノーリフティングケアとICT活用による現場改革～



さくらセンター

社会福祉法人 西鳳会
さくらセンター

1.

なぜ生産性向上の取り組みを始めたのか

◆「人の力だけに頼る介護」に限界



平均介護度4.1～4.2の重度利用者が中心



持ち上げ介助による腰痛が常態化



夜間の過剰訪室による身体的・精神的負担



ICT機器が十分活用されていない



離職につながる不安



「このままでは、ご利用者・職員双方が苦しくなる」

2. 西鳳会が目指した介護

◆「必要な時に、必要なケアを」



ノーリフティングケア（持ち上げない介護）



状態を見て判断する夜間ケア



利用者の尊厳と安全を守る



職員の身体を守る



「直接ケア時間」を増やす



※ 写真・イラストはイメージです



「**楽をする介護**」ではなく、「**専門性を高める介護**」

3.

ノーリフティングケアの導入（１）

◆「持ち上げない介護」への転換

導入機器

- ① Hug（移乗サポートロボット 生活用・入浴用）
- ② つるべー（移動式リフト）
- ③ アーチパートナー（据置式リフト）
- ④ スライディングシート、スライディングボード、介助グローブ（介護技術）

①

Hug

（移乗サポートロボット 生活用・入浴用）



抱え上げない移乗をサポートする
移乗サポートロボット

②

つるべー

（移動式リフト）

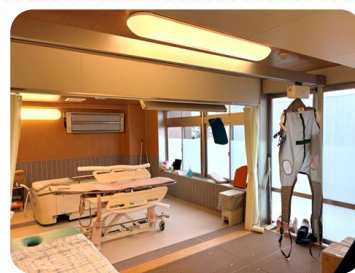


ベッドから車椅子などへの
移乗をサポート

③

アーチパートナー

（据置式リフト）



安定した設置型リフトで
安全な移乗を実現

④

スライディングシート、
スライディングボード、介助グローブ
（介護技術）



摩擦を軽減し、少ない力で安全に
移乗・体位変換をサポート



「持ち上げない介護」で、利用者の安全と職員の身体を守ります

3. ノーリフティングケアの導入（2）

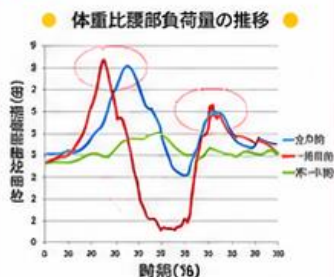
◆「持ち上げない介護」の定着研修の開催

5カ月間の継続研修（全て受講必須研修として位置づけ）

- | | |
|----------------|--------------|
| ① ノーリフティングケアとは | ② スライディングボード |
| ③ スライディングシート | ④ 介助グローブ |
| ⑤ 移動式リフト | ⑥ Hug |
| ⑦ ポジショニング | ⑧ シーティング |



① ノーリフティングケアとは



データで現状を知り、
理論と必要性を学ぶ

② スライディングボード



少ない力で安全に
移乗するための基本技術

③ スライディングシート



摩擦を軽減し、負担を
最小限にする技術

④ 介助グローブ



摩擦を軽減し、
安定した体位変換を支援

⑤ 移動式リフト



持ち上げない安全な
移乗を実現

⑥ Hug



持ち上げない移乗を
サポートするロボット

⑦ ポジショニング



快適で安定した姿勢を保ち、
負担とリスクを軽減

⑧ シーティング



個々に合わせた座位保持で
自立と安全を支援



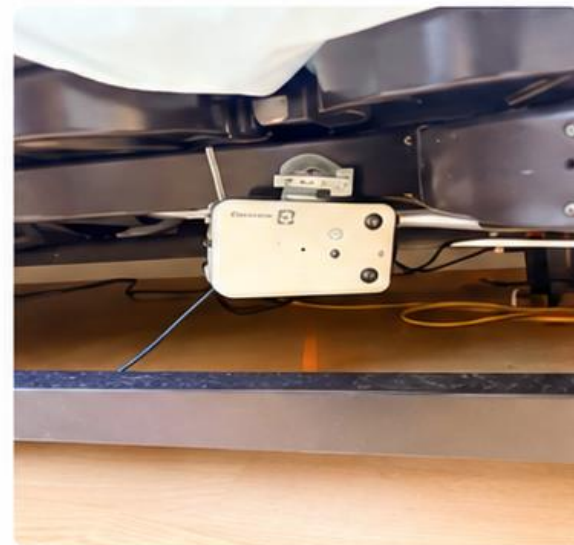
継続した研修で、「持ち上げない介護」を現場に定着

4. 眠りSCANとICT活用（1）

◆「訪室の質」を変える

導入前

- ① センサーコール（床・体動・赤外線）が鳴るたび訪室
- ② 定時巡回中心
- ③ 夜間帯歩数 平均約9,300歩（勤務17時～翌朝10時）
- ④ 夜勤職員の身体的・精神的負担増大



4. 眠りSCANとICT活用（2）

◆ 「訪室の質」を変える

導入後

- 1 眠りSCANによる睡眠状態把握
- 2 状態を確認して訪室
- 3 必要時訪室への転換
- 4 介護記録ソフトほのぼのとの連携活用（自動記録）



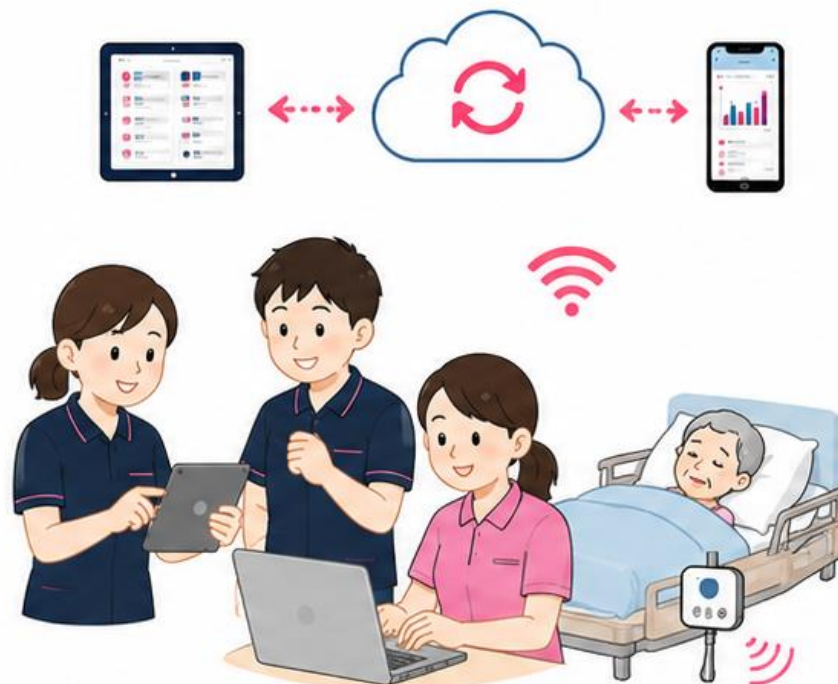
4. 眠りSCANとICT活用（3）

◆ 現時点の課題

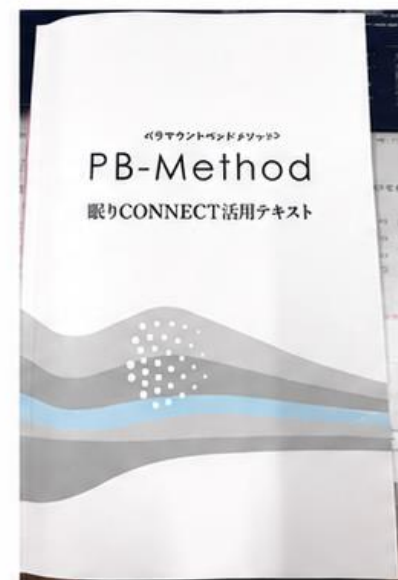
- 活用方法のばらつき
- iPhone、iPad整備が未完了
- さらなる職員教育が必要

◆ 今後の取り組み

- 各ユニットへのiPad導入
- 情報共有の即時化
- 夜間ケア精度向上（睡眠アセスメント）
- 眠りSCAN活用の標準化



※ 写真・イラストはイメージです



「訪室を減らす」のではなく、「必要な時に必要なケアを行う」

5. 現場で感じた課題

◆「導入すれば解決」ではなかった

- 機器への不安
- 設定や運用の難しさ
- 一時的に訪室が増えた時期も
- 介護方法を変える難しさ
- 現在も試行錯誤を継続中



※ 写真・イラストはイメージです



「機器導入」だけでは、現場は変わらなかった

6.

現場に起きた変化

◆ 少しずつ変わり始めた現場（アンケート調査実施）

腰痛あり職員割合

導入前

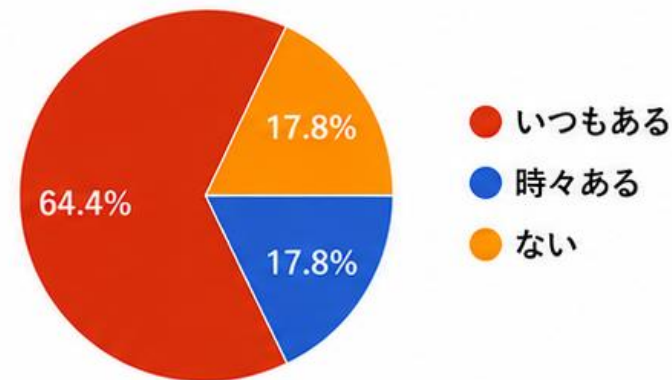
94%



導入後

82%

腰痛の有無
45件の回答



◆ その他の変化

1 乗降時の 身体負担軽減



リフトや福祉用具
の活用により、
乗降介助時の
腰や肩への
負担が軽減

2 利用者の 安心感向上



「安心して任せら
れる」との声が
増え、信頼関係
がより深まった

3 夜勤明け 疲労感の軽減



夜間の歩数
(平均)

導入前 導入後

夜勤後の身体の
重さや疲労感が
軽くなったと
実感する職員が
増えてきた

4 「持ち上げない介護」 への意識変化



職員同士で声を
かけ合い、
持ち上げない
ケアが定着し
つつある

※ 写真・イラストはイメージです



少しずつ、“持ち上げない介護”が現場に定着

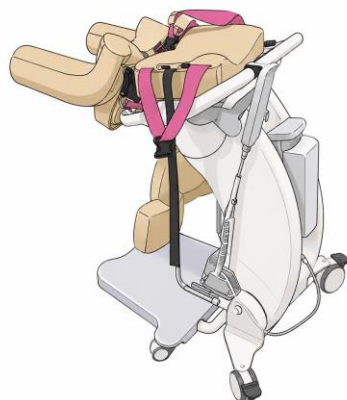
7. 本日の見学・体験会

◆ ぜひ現場をご体験ください

・ 本日の体験内容 ・

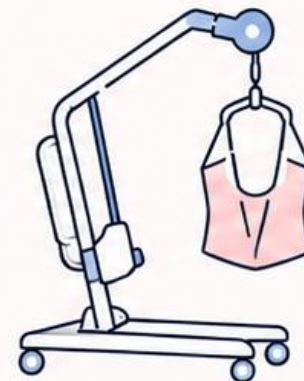
1 移乗サポートロボット (生活支援・移乗支援)

持ち上げない移乗をサポートする
ロボットを体験できます。
職員・利用者双方の負担軽減に
つながります。



2 移動式リフト (スムーズな移乗を支援)

ベッドから車いすなどへの移乗を
安全・スムーズに行える
移動式リフトを体験できます。



3 介護技術支援ツール (負担軽減を支える介護技術)

スライディングシート、介助グローブ、
ポジショニングなどの介護技術を
体験できます。
身体の負担を減らし、安全・安心な
ケアの実践につながります。



スライディング
シート



介助
グローブ



ポジショニング
クッションなど

4 見守り・睡眠支援システム (見守り・睡眠の可視化)

利用者の睡眠・覚醒状態や動きを
見える化し、離床・在床の把握や
ケアの質向上を支援する
システムを体験できます。



◆ ぜひ業務改善をご覧ください

• 本日の実演内容 •

5

AI議事録支援アプリ「noman」

(居宅介護支援・施設ケアマネジャー業務支援)

居宅介護支援事業所および施設ケアマネジャーを対象に導入したAI議事録支援アプリ「noman」の実演を行います。

会議・担当者会議等の記録作成支援により、記録業務の効率化と業務負担軽減につながります。

※ 本内容は石川県生産性向上モデル事業の対象外です。

※ 当法人独自の業務改善取組として導入しております。



※ 写真・イラストはイメージです

◆ ぜひ業務改善をご覧ください

・ 現時点の導入実績 ・

5

AI議事録支援アプリ「noman」導入実績

(居宅介護支援・施設ケアマネジャー業務支援)

居宅介護支援事業所および施設ケアマネジャーを対象に導入したAI議事録支援アプリ「noman」の現時点実績をご紹介します。

会議・担当者会議等の記録作成支援により、記録業務の効率化と業務負担軽減につながっています。



※ 写真・イラストはイメージです

現時点の法人内実績

(正社員ケアマネジャー4名)



記録作成時間の短縮

・ 担会録・議事録	約45分	→	約10分弱
・ 訪問記録	約15分	→	約5分
・ モニタリング記録	約15分	→	約5分
・ カンファレンス記録	約1時間	→	約10分



時間外勤務の削減

平均約40時間 → 約10時間へ削減



現場で感じている変化

- ・ 記録業務負担の軽減
- ・ 利用者対応時間の確保
- ・ 情報共有の迅速化
- ・ 心理的負担軽減

※現時点の法人内実績です ※記録内容・ケース状況等により変動があります

※当法人独自の業務改善取組として導入しています



記録業務の効率化により、“人に向き合う時間”の確保へ

9. 最後に

◆ 介護を進化させる現場へ



- 今回の取り組みは、まだ途中段階です



- 現在も試行錯誤を続けています



- 機械導入が目的ではありません



- 介護の専門性を高める取り組みです



- 今後も改善を続けてまいります



※ 写真・イラストはイメージです

「現場の意識は、少しずつ**変わり始めています**」

本日はお越しいただき 誠にありがとうございました



介護の専門性向上と、安全・安心なケアの実現に向け、
今後も取り組みを継続してまいります。



特別養護老人ホーム
さくらセンター
SAKURA CENTER